

ブドウ「尾鈴」(仮称)の染色体数について

川上郁夫・波多野洋・*山根弘康
(宮崎県総合農業試験場・*果樹試験場安芸津支場)

宮崎県都農町の永友百二氏が巨峰よりも作りやすい黒色ブドウの育成を目標として、昭和38年巨峰にスーパー・ハンブルグを交配して10数本の個体を得た。このうちの2個体は無核であることがわかったが、1個体は育成途中枯死した(年次不詳)。残りの1個体はジベレリン処理を行うと4g前後の果粒となり、熟期も8月上旬でキャンベル・アーリーとほぼ同時期で有望品種と考えられる(尾鈴)。この品種の無核性が巨峰(4倍体)とスーパー・ハンブルグ(2倍体)の間に生じた3倍体の個体ではないかと推定し、この個体の染色体調査を行った。

1. 試験方法

染色体の調査は尾鈴の新しう先端部の幼葉を採取して0.002モルの8-オキシキノリン(18℃)に6時間浸漬して前処理したのち、カルノア変液(エタノール2:酢酸1:クロロホルム1)で固定し、1N-HCl入りの2%アセトオルセインで染色したのち押しつぶし法で行った。

2. 結果および考察

尾鈴の特性を概括すると樹勢は巨峰に似て強勢であり結果枝の伸長もよく、多少伸びすぎる位であるが、花振りはいしにくい。また病害に対しては強い方で一般の防除

で十分である。果房は大きい方で果粒は密着するので果房を伸ばすため展葉4~5枚の時にGA 5ppmを散布することが必要である。果粒はGA処理をしない場合は1~2gの大きさであるが、落花後10日目頃にGA 50ppmを散布することにより4g位となりまた着粒数が少ない場合は6~7gとなる。糖度(Brix)は16~17度位で巨峰と同程度である。このような特性をもった尾鈴は4倍体の巨峰(2n=76)に2倍体のスーパー・ハンブルグ(2n=38)を交配して育成されたものであるから理論的には3倍体(2n=57)となるはずである。調査は昭和53年~54年に行ったが、その結果は第1表のとおりで、昭和53年の調査では最高57までの染色体を観察した。さらに昭和54年春芽の調査で最高58の染色体を観察した(第1図)。したがって、尾鈴は3倍体であるが、正規の3倍体ではなくて3倍体の異数体(3×+1)であると思われる。現在までの調査は新しう先端部の幼葉のみについて行なったものであるが、今後花粉母細胞などの染色体数を調査し、さらに尾鈴の無核性の由来を確認していく。

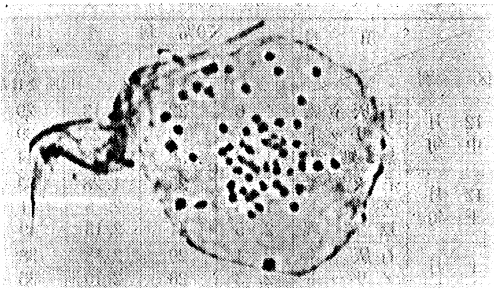
第1表 ブドウ「尾鈴」の染色体数

調査年	観察された染色体数
昭53年	51, 52, 54, 55, 57,
昭54年	51, 53, 55, 57, 58.

第2表 ブドウ尾鈴の果実特性(昭54年)

	房重	粒数	果穂長	粒重	糖度(Brix)	酒石酸	可溶性固形物
	g	個	cm	g	%	%	%
尾鈴	174.4	38.0	10.3	4.6	16.5	0.402	17.83
巨峰	297.3	26.5	11.9	11.2	*13.5	0.448	14.68

* 結実過多のため昭和54年度は糖度がとくに低かった。



第1図 ブドウ「尾鈴」の幼葉細胞染色体